

# 五段活用動詞「違う」の形容詞型活用

石井 由希子

はじめに

現在、五段活用動詞である「違う」が、若い世代の人々の間で「ちがかった」「ちがくない」のように形容詞的に活用・使用されている。

本稿は、先行研究における調査結果とアンケート調査による結果から「違う」の形容詞型活用が普及しつつある現状を確認し、また、その普及原因について考察することを目的とするものである。

## 1. 「ちがかった」「ちがくない」という言い方について

五段活用動詞「違う」は本来、「ちがわない／ちがいます／ちがった／ちがう／ちがう／ちがえば」のように活用される（表1）。

表1（北本（1995）p.135）

	語幹	未然	連用	終止	連体	仮定	命令
違う	ちが	—わ (—お)	—い —っ	—う	—う	—え	(—え)
接続する主な付属語		ナイ (ウ)	マス タ テ	ソウダ カラ ケレド	ヨウダ ノデ ノニ	バ	

しかし、この活用表に当てはまらない言い方が多く見受けられるようになっている。TV番組や Web 上の書き込みでの使用が多いが、漫画などで確認することもできる。

(1) 韓国語に翻訳をお願いします。翻訳機だとちょっとちがかったので..

(<http://oshiete.goo.ne.jp/qa/6197176.html> (2011/01/05))

(2) 「ちがくなる」を「違」に変換しようとしたらできません。今までずっとちがくなるだと思ってましたが、間違いなのでしょうか？

これ以外にも、普段「それちがくない?」とか言っていました。

([http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q117753881](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q117753881) (2011/01/04))

- (3) 見吉「えっ 真城も今日仕事場行かないの？」  
 真城「もう小河さん達が仕上げるだけになってるから」  
 見吉「いつもと違うくない？」  
 高木「鈍いな 会議の結果アシスタントのいる所で受けたくないんだって」  
 見吉「あっ 万が一ね……」 (『バクマン。』 6巻p.186)

こうした言い方については、井上史雄 (1998) などでも取り上げられている。現在ではこれら形容詞型活用が市民権を得て、破格表現であるという認識が薄らいできているようである (4.3.に後述)。本章では、本来の活用形とは異なる、「違う」の形容詞型活用を文法的破格と捉え、現在の使用状況などを見ていくと共に、こうした活用形が生じた原因を考察することを目的とする。

## 2. 先行研究

### 2.1. 北本 (1995)

北本 (1995) は、学生が英語の和文訳の中で使用した「違うはなかった」という言い方を始めとして、その他の学生の「Xは～だった」に続く「Yは～ではなかった」の意で使用される「Yはちがかった」という言い方に疑問を感じ、言語調査を行っている。

まず、北本は収集した「ちがくはなかった」「ちがかった」という2つの言い方について、形容詞「近い」の活用表を示し (表2)、連用形の語幹部分を「ちが」で置き換えると、「ちがーかった」「ちがーく」となり、(4)(5)のように分析できるとする。

表2 (北本 (1995) p.136より作成)

	語幹	未然	連用	終止	連体	假定	命令
近い	ちか	(-かろ)	ーかっ ーく	ーい	ーい	ーけれ	ー
接続する主な 付属語		(ウ)	タ テ ナイ	ソウダ カラ ケレド	ヨウダ ノデ ノニ	バ	

- (4) 「ちがかった」= 語幹「ちが」+ 形容詞連用形活用語尾「かっ」+ 付属語「た」  
 (5) 「ちがくはなかった」= 語幹「ちが」+ 形容詞語幹語尾「く」+ 助詞「は」+ 付属語「なかつ」+ 「た」

北本 (1995) は現在の標準語において、動詞「違う」と同根の形容詞がないことを確認

した上で、「ちがくはなかった」の助詞「は」が形容詞連用形と打消を表す「ない（なかった）」の間に挿入可能な助詞であると指摘し、「ちがく」は形容詞の連用形として使用されていると考えざるを得ないとしている。そして、「ちがーく」の「ーく」は形容詞連用形語尾「ーく」であるとし、「ちがーかった」の「ーかった」も同様に形容詞連用形語尾であるとしている。

また、(6) (7) の2例を挙げ、「違う」が形容詞連用形語尾を伴う形の語形変化を確認し、連用形以外の活用形で、形容詞の活用語尾が語幹「ちが」に接続して用いられるかどうかを調査している。

(6) バスの中での女子高生風の2人の会話

(一方の発言に異を唱えて他方が)「(あなたが言っているのとは) ちがくて。」

(北本 (1995) p.136)

(7) 都立高校の入試説明会に参加した女子中学生がテレビ局のインタビュー

「(業者テストが廃止されると高校入試の様子が) ちがくなっちゃう。」

(北本 (1995) p.136)

2.1.1. 北本 (1995) の調査 1

北本 (1995) は、語幹「ちが」と後に続く様々な語を刺激として与え、間を埋める活用語形を引き出すという形で、「違う」の形容詞型活用形が実際にどの程度現れるかを調査している (図1)。被験者は横浜女子短期大学1年生73名。

図1 (北本 (1995) p.137より作成)

北本 (1995) 調査 1		(1994年7月実施)
1. 違 ( ) て	連用形	
2. 違 ( ) ない	未然形 (動) / 連用形 (形)	
3. 違 ( ) た	連用形	
4. 違 ( ) から	終止形	
5. 違 ( ) ば	仮定形	
6. 違 ( ) のに	連体形	
7. 違 ( ) ても	連用形	
8. 違 ( ) たり	連用形	
9. 違 ( ) そうだ	終止形あるいは連用形 (動) / 語幹 (形)	
10. 違 ( ) けれど	終止形	
11. 違 ( ) し	終止形	
12. 違 ( ) ので	連体形	

回収されたワークシート73枚のうち、何らかの形で形容詞型活用語尾が見られたのが29枚で、被験者の約40%が形容詞型活用を1回以上使用していたという (表3)。

12問いずれにも形容詞活用語尾が見られ、連用形語尾に加えて仮定形語尾「けれ」の存在を確認している。また、北本は、終止形および連体形語尾「い」が見られなかったこと

表 3 (北本 (1995) p.138より作成)

接続			回答	人数
連用形	1	違 (く) て	形容詞連用形活用語尾	12名
連用形	1	違 (かつ) て	形容詞連用形活用語尾	1名
連用形	3	違 (かつ) た	形容詞連用形活用語尾	8名
連用形	7	違 (く) ても	形容詞連用形活用語尾	10名
連用形	8	違 (かつ) たり	形容詞連用形活用語尾	5名
連用形	3	違 (くなっ) た	形容詞連用形活用語尾+動詞「なる」連用形	1名
連用形	7	違 (くなっ) ても	形容詞連用形活用語尾+動詞「なる」連用形	1名
連用形	8	違 (くなっ) たり	形容詞連用形活用語尾+動詞「なる」連用形	2名
未然形 (動) 連用形 (形)	2	違 (く) ない	形容詞連用形活用語尾	12名
未然形 (動) 連用形 (形)	2	違 (くは) ない	形容詞連用形活用語尾	2名
仮定形	5	違 (けれ) ば	形容詞仮定形活用語尾	4名
連体形	6	違 (かった) のに	形容詞連用形活用語尾+助動詞「た」連体形	1名
終止形	9	違 (かった) そうだ	形容詞連用形活用語尾+助動詞「た」終止形	1名
終止形	10	違 (かった) けれど	形容詞連用形活用語尾+助動詞「た」終止形	2名
終止形	11	違 (かった) し	形容詞連用形活用語尾+助動詞「た」終止形	3名
連体形	12	違 (かった) ので	形容詞連用形活用語尾+助動詞「た」連体形	3名
終止形	4	違 (くない) から	形容詞連用形活用語尾+補助形容詞「ない」終止形	2名

について、「語幹「違」+形容詞終止形/連体形語尾「い」=「違い」が、動詞連用形「違い」と同形で、終止形/連体形に接続する助詞/助動詞と結び付けるには抵抗があったためと思われる」と分析している。

なお、ほとんどの場合、一方では形容詞連用形語尾 (例、「違 (く) て」) を使用しながら、他方では動詞連用形語尾 (例、「違 (っ) ても」) を記入するなど、動詞ワ行活用語尾が形容詞活用語と同時に現れていたという。

以上の点から、北本 (1995) では「違う」の活用体系には2つの異なる系統が共存しているとしている (表 4)。

表 4 (北本 (1995) p.139)

	語幹	未然	連用	終止	連体	仮定	命令
違う	ちが	—わ	—い —っ	—う	—う	—え	
			—かっ —く			—けれ	

### 2.1.2. 北本 (1995) の調査 2

北本 (1995) は井上史雄 (1985) の調査結果を挙げ、「違う」本来の動詞としての活用形と形容詞型活用形に対する標準・非標準の意識について調査を行っている。

井上（1985）の調査では、「ちがかった」を使用すると答えた中学生のうち半数が、「自分がテレビに出演する場合は使用しない」と答えており、使用者自身が「ちがかった」という表現を「文体の低い、改まった場では使用すべきでない非標準語」と考えていることの現われであると解釈している。

図2（北本（1995）pp.140-141より作成）

北本（1995）調査2	（1994年10月実施）
1. 「この住所は違いますね」	動詞連用
2. 「その番号違くない？」	* 形容詞連用
3. 「条件が違ければ結果も変わりますよ」	* 形容詞假定
4. 「兄とは違って勉強嫌いなんだ」	動詞連用
5. 「それがどうも違うらしいんだ」	動詞終止
6. 「君の話とはすいぶん違かったよ」	* 形容詞連用
7. 「この答えじゃ違そうだね」	* 語幹+そうだ
8. 「前のと違わないはずだけどなあ」	動詞未然
9. 「違さがはっきり分かるよ」	* 語幹+さ（名詞）
10. 「これじゃサイズが違くてはまらないよ」	* 形容詞連用
11. 「当然対応も違ってくるでしょう」	動詞連用
12. 「かなり違いだろうね」	* 形容詞終止
13. 「色も違えば形もバラバラだ」	動詞假定
14. 「そんなに違くないと思うよ」	* 形容詞連用
15. 「これぼくの欲しいのとは違すぎる」	* 語幹+「すぎる」
16. 「この程度の違いは問題じゃない」	動詞連用（名詞）
17. 「予想と違くなるかもしれない」	動詞連用
18. 「予想と違くなるかもしれない」	* 形容詞連用（副詞法）

北本（1995）の調査2では、「違う」の動詞としての活用形または形容詞型活用形を含んだ口語文18文を提示し、各表現について『普通だと感じる』ならば○、『やや普通でないと感じる』ならば△、『明らかにおかしいと感じる』ならば×を記入させ、×を記入したものについては、自分ならこういうだろう、という形に訂正させた（図2）。被験者は関東学院大学釜利谷校の2年生72名（男子21名、女子51名）。結果は表5に示した。

形容詞型用法については、用法によって許容度にばらつきがある。連用形・假定形用法の許容度が高く、これは北本（1995）の調査1と対応するものと言える。

また、北本は終止形「12. 違いだろう」と語幹+「さ」の「9. 違さ」がほとんど受け入れられていない点に関して、「終止形「違い」は動詞連用形およびそれから転じた名詞と同形であるために、形容詞終止形としての用法に違和感が強く、また、「名詞「違さ」は、すでに名詞「違い」があり、新たな形態の名詞に必然性がないため、受け入れるものはごくわずかであった」としている。しかし、その一方で、語幹用法のうち「7. 違そうだ」や「15. 違すぎる」に関して完全に否定する割合が減っていることを指摘し、「「違う」

表5—1 (北本 (1995) p.141より作成)

【動詞型用法】		○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
1. 違います	連用	64(89)	66(88)	22(33)
4. 違って	連用	70(97)	2(3)	0(0)
5. 違うらしい	終止	69(96)	3(4)	0(0)
8. 違わない	未然	55(76)	15(21)	2(3)
11. 違ってくる	連用	69(96)	2(3)	1(1)
13. 違えば	仮定	64(89)	6(8)	2(3)
16. 違い	連用→名詞	71(99)	0(0)	1(1)
17. 違ったり	連用	59(82)	9(12)	4(6)

表5—2 (北本 (1995) p.141より作成)

【形容詞型用法】		○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
2. 違くない	連用	19(27)	27(37)	26(36)
3. 違ければ	仮定	17(24)	17(24)	38(52)
6. 違かった	連用	29(40)	19(27)	24(33)
7. 違そうだ	語幹	5(7)	15(21)	52(72)
9. 違さ	語幹→名詞	1(1)	2(3)	69(96)
10. 違くて	連用	15(21)	22(30)	35(49)
12. 違いだろう	終止	2(3)	0(0)	70(97)
14. 違くはない	連用	24(33)	29(40)	19(27)
15. 違すぎる	語幹	8(11)	16(22)	48(67)
18. 違くなる	連用	25(34)	32(44)	15(21)

の形容詞として用法が普及し、「違う」のさらなる形容詞化を受け入れる態勢が整いつつあることを示しているのかもしれない」と言及している。

また、注目すべき点として、動詞型活用「8. 違わない」を『普通だ』とする割合が72%と動詞型用法の中では比較的低いという結果が出ている。動詞型活用「8. 違わない」を『明らかにおかしい』『やや普通でない』とした割合が24%、形容詞型用法「2. 違くない」「14. 違くはない」を『普通』だとした割合はそれぞれ27%と33%で、かなり接近しているといえる。北本は、「8. 違わない」に否定的な判定を下した被験者のすべてが形容詞型用法を指示していたわけではなく、「ない」を伴うこれら3つの表現が全く同じ文脈で使用されている訳ではないので単純な比較はできない」としながらも、「違う」の打ち消し表現において、動詞型「違わ」が敬遠され始め、一方、形容詞型「違く」は勢力を伸ばしつつあると見ることができると結論付けている。

なお、動詞型用法を『明らかにおかしい』として訂正する際、多くの被験者は「違う」を「変わる」「間違う」などの別の語で置き換えていたという。この点は、「違う」の形容詞型活用が普及していった言語的理由に関連する部分である(5.に後述)。

## 2.2. 井上 (1998)

井上 (1998) は「違う」の形容詞型活用について、東京で「違う」の過去形として「ちがかった」が急速に普及していると指摘し、これを「簡略化の動き」の一つとして紹介している。

井上によると、動詞「違う」にそのまま過去のタを付けた「ちがった」は、「「違う」という動詞の性質上、変化の瞬間をさす」という。以下、(8)の言い方は許容されるが、(9)ではふさわしくないとしている。

(8) 化学実験中、試験液をたらしながら、今か今かと色の変わる瞬間を待っている時に  
「あっ、違った」 (井上 (1998) p.67)

(9) ?? 「昔はバレーボールのルールは違った」 (井上 (1998) p.67)

井上は (9) について、テイタを付けて過去の継続的状态を示すのが適当だとしている。その上で、「違う」を形容詞のように見なし、カッタを付けてと表現すると「過去の継続的状态をもっと簡潔に表わせる」と述べている。

(9') 「昔はバレーボールのルールは違っていた」

(9'') 「昔はバレーボールのルールは違かった」

(8) の例文は、明らかに「あ、変わった」と置き換えるのが自然であろう。しかし、「ちがった」が“変化の瞬間”を指すという指摘と、「ちがかった」が“過去の継続状態”を簡潔に表すという指摘は興味深い。これらの指摘に関しては5章で考察したい。

また、井上 (1998) は「違う」の形容詞型活用の使用状況についても言及している。「ちがかった」に関しては幼児のことばの記録で目にするという指摘に始まり、1993年には大学のレポートの文章でもその使用を確認している。「ちがかった」以外にも「ちがくなかった」「ちがくない」「ちがくて」などの言い方を耳にし、歌詞でも使用されていると述べている。その歌詞に関して詳細はなかったが、1997年発売の Mr. Children のシングル曲中に (10) の例を確認することができた。

(10) 愛すべき人よ 君に会いたい 例えばこれが 恋とは違くても  
(『Everything (It's you)』)

歌詞には曲に合わせるという音数上の制約があるが、(10) の例では、「違くても」は「違っても」と置き換えてもモーラの数と同じである。よって、歌詞特有の制約を受けて形容詞型活用が生じたとは考えにくい。

また、井上（1998）と同時期の漫画中にも「違って」の使用が確認できた。

- (11) のえる「どう？落ちそう？ごめんなまりあ…けど、おれ、どーしてもやだったんだよ。まりあ広部さんの前だとなんつーか…恋する女の子全開の表情っつーか、いつものまりあと違って…（後略）」  
（『ミントな僕ら』1巻p.77）

さらに、井上（1998）は「違う」の形容詞型活用終止形「ちげー」の存在を指摘する。「高い」「長い」を「たけー」「ながー」と言うように、「形容詞末尾の「アイ」を「エー」に変えるのは関東以北の方言でも、東京の下町言葉や若者の俗語でもよくある」とした上で、「ちげー」を俗語の終止形とし、「ちがかるう／ちがくない／ちがかった／ちがい（ちげー）／ちがい（ちげー）／ちがければ」という新しい形容詞の活用形がほぼ揃ったとしている。

### 3. 「違う」の形容詞型活用の実例

こうした「違う」の形容詞型活用形は、先行研究の指摘の通り、日常会話では頻繁に使用されている。また、本章の冒頭でも述べた通り、Web 上での書き込み（ブログや掲示板）のみならず、漫画などにも多く見られるようになってきている。以下に筆者が収集した用例を挙げる。

- (12) 藤崎「あ？何ふざけてんだ、おめー。リアリティナニのマジカルステッキ？」  
笛吹「シニカルステッキだ」  
藤崎「うるせーな!! どっちでもいいだろそんなもん!! つーかお前声違くね？ なんかちょっと…け、獣？みたいな感じすんだけど」  
（『SKET DANCE』1巻p.160）
- (13) 真城「!?何その顔 また見吉にやられたのか」  
高木「いやバトルもの描くには戦う人の気持ちわからないと、と思って見吉に協力してもらって」  
真城「……なんか違くね？いや一理あるか…で、得たものあったのかよ」  
（『バクマン。』3巻p.10）
- (14) 高木「約束守れなかった俺が悪いんだから仕方ない」  
見吉「あたしのせいじゃん」  
高木「違う！」  
見吉「違くない。夏休みいつもあたしと一緒にいたから」  
高木「違うだろ!! 一緒にいたけど俺いつもマンガのシナリオ作ってただろ!!」  
（『バクマン。』4巻p.15）



本章冒頭の(3)や(12)～(14)の漫画中の实例を見る限りでは、形容詞型活用の中でも、連用形「ちがくない」が広く浸透しているようである。

Web 上であれば、その他の活用形の实例も確認することができた。

- (15) (前略) みんな何かしら他人の芝生を自分と区別したがる 地位も職も資産も精神状態も年齢も 体感時間も ちがかるうがみんな辛いし 厳しい問題を抱えやりくりしている なぜ線引きをしたがるのか……

(<http://twitter.com/dokTyan/status/29656011194> (2011/01/05))

- (16) (前略) にしても返送されてきたPDFはしっかり文字が読めましたけど。これでたぶん読めます、とはね。想像力を働かす必要がないぐらいよく読めるのは私が書いた本人だからか? いや、ちがかるう。そしてまた、航空券の手配をお願いしたら、イジョーに高いチケットを手配してきた。

(<http://lovelyroo-ny.cocolog-nifty.com/blog/2009/03/post-270f.html> (2011/01/05))

- (17) シャイな男子中学生に質問!

ちがくてもいいです(o^v^o)

([http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1234211002](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1234211002) (2011/01/05))

- (18) はじめまして。私は中3で、今回等速直線運動のレポートを書かなければいけないのですが、考察の書き方がわかりません>\_<;あと、私の学校は中1で生物、中2で化学、中3で物理をやるので本屋さんでよくみる問題集だとやっているとちがくてよくわかりません…。どんな問題集を買っていいのかなど教えてください。

(<http://sci.la.coocan.jp/fchem/log/rika/12150.html> (2011/01/05))

- (19) 正直自分は機種についてあまり詳しくありません。

せいぜいわかるのはB747、B777、B737ぐらいか……

なので機体に描かれている文字と、航空会社所有の機種を調べて書いてあります。車みたいにはっきりちがければいいけど、どうも航空機はちがいがわかりにくい……

(汗)

([http://kinkyu.at.webry.info/200906/article\\_3.html](http://kinkyu.at.webry.info/200906/article_3.html) (2011/01/05))

- (20) 同じのを使っています。

ちがくても肌への影響はないと思いますが、まず香りが全くちがければ香りがまじってしまうと思います。

(<http://oshiete.goo.ne.jp/qa/4127558.html> (2011/01/05))

北本(1995)は形容詞未然形「一かるう」自体を無いものとし、井上(1998)では、未然形「ちがかるう」は「ちがうだろ(う)」、仮定形は「ちがけりゃ/ちがきゃ/ちがった

ら／ちがうなら」が現代東京の実際の使用状況に合っているとして、この2つの活用形についてあまり触れていないが、上記の未然形 (15) (16)、仮定形 (19) (20) のように用例を見つけることはできる。次章ではこれらの普及状況についても確認していく。

また、(21) のように「ちがかった」「ちがくない」という言い方に関して、「誤用 (本稿で言う“破格”）」あるいは「若者ことば」であると指摘する書き込みが多いのも事実である。これらの言い方を使用者がこれらを破格と認識して使用しているか否かについても、北本 (1995) の調査 2 において、動詞型活用「違わない」を『明らかにおかしい』『やや普通でない』とした割合が24%という結果を踏まえ、次章で考察したい。

- (21) 息子が小学生のころから「ちがかった」という変な日本語を使うようになりました。大きくなれば治るだろうとたいして気にしていなかったら、中3になってもまったく治る気配はなし、です。彼は「ちがかった」が正しい日本語だと信じているようです。娘も「ちがかった」と言うようになりました。そういう言い方をするのは子供だけではありません。テレビで見る若手タレントの「ちがかった」使用率もかなり高いと思います。ただしちゃんといい学校を出たタレントが使っている場面ってあんまり記憶に残っていません。やはり頭のいい人は使わないってことか。

([http://www.mypress.jp/v2\\_writers/mage/story/?story\\_id=1800213](http://www.mypress.jp/v2_writers/mage/story/?story_id=1800213) (2011/01/04))

#### 4. アンケート調査

今回取り上げた先行研究は共に1990年代のものであり、発表から10年以上の時が経過している。井上 (1998) で「ちがかった」の急速な普及が指摘されている通り、筆者の実体験として、「違う」の形容詞型活用は文法的破格であるという意識がかなり薄らぎ、日常的に使用されている。

本章では先行研究以降、「違う」の形容詞型活用がどれだけ普及してきているかについて、北本 (1995) 調査 2 における結果と本稿のアンケート結果を比較することで確認する。なお、本稿では「違そうだ」「違さ」「違すぎる」といった「違」を語幹とする表現については調査が及ばなかった。

##### 4.1. アンケート調査内容

千葉大学の学生50名 (男子22名、女子28名) を対象にアンケート調査を実施した (2010年12月実施)。「違う」の動詞型活用と形容詞型活用を含んだ口語文10例を提示し、『違和感はなく、許容できる』ならば○、『多少の違和感があるが、許容できる』ならば△、『違和感があり、許容できない』ならば×、にそれぞれマークを付けてもらった (【調査 I】とする)。

また、同時に「違う」の形容詞型活用を含む、【調査 I】とは別の口語文 8 例を提示し、

『聞いたことがあり、自分でも使うことがある』ならば○、『聞いたことはあるが、自分では使うことはない』ならば△、『聞いたことがないし、自分でも使うことはない』ならば×、にそれぞれマークを付けてもらうアンケートを実施した（【調査Ⅱ】とする）。

#### 4.2. アンケート結果

アンケートの結果を活用形別に示す。なお、例文番号は実施したアンケートに従う。

##### 4.2.1. 未然形「ちがかりう」

(北本 (1995) 調査 2 における調査結果なし)

【調査Ⅰ】(2)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
国籍がちがかりうが、恋には関係ないよ。	21 (42.0)	19 (38.0)	10 (20.0)

北本 (1995) でも井上 (1998) でもあまり取り上げられていなかった、未然形「ちがかりう」という言い方だか、今回の調査では×（『違和感があり、許容できない』）とした人の割合が20%と、予想以上に許容されていることが分かった。

【調査Ⅱ】(22)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
二人の意見がちがかりうが、今は協力するしかない。	24 (49.0)	23 (46.9)	2 (4.1)

【調査Ⅱ】になると、未然形「ちがかりう」を×（『聞いたことがないし、自分でも使うことはない』）とした人の割合が5%を切っている。また、わずかではあるが、【調査Ⅰ】で○（『違和感はなく、許容できる』）とした人の割合よりも、【調査Ⅱ】で○（『聞いたことがあり、自分でも使うことがある』）とした人の割合の方が高くなっている。これらは、この表現を「破格である」と認識しながらも使用している人がある可能性を示唆している。

##### 4.2.2. 連用形

###### a. 「ちがくない」

(北本 (1995) 調査 2 における「ちがくない」許容度【○：27%、△：37%、×：36%】)

【調査Ⅰ】(1)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
その答えちがくない？ 回答欄一つずれてるよ？	26 (52.9)	23 (46.0)	1 (2.0)

2つの先行研究の通り、早くから普及が確認されていた連用形「ちがくない」は、×（『違和感があり、許容できない』）と回答した人は1名のみであった。若者同士の会話では「～くない?」「～くね?」という表現が相手への確認形式として確立し広く使用されているが、「ちがくない」も同様に疑問文として使用されることが多い。漫画中の用例も多くが「ちがくない?／ちがくね?」の形であった（3.参照）。

- (22) 友人「サイコーの絵 また張り出されてやんの」  
真城「上手からしかたねーだろ」

友人「将来マンガ家だっけ？なんか絵ちがくね？」  
 真城「バーカ 基本が大事なんだよ そんな絵どーでもいいだろ  
 早くダンボール船の大会行こうぜ」 (『バクマン。』6巻p.50)

「ちがくない」を平常文で使用した場合の許容度を以下に示す。

【調査Ⅰ】(9)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
(電話が繋がらず) おかしいな。番号は <u>ちがくない</u> みたいなのに。	9 (18.0)	19 (38.0)	22 (44.0)

【調査Ⅰ】(1)と(9)を比較すると、「ちがくない」は圧倒的に疑問文での使用の方が許容されているようである。フォローアップインタビューを行ってみると、北本(1995)の調査結果でもあったように、「違う」を「間違う」に変え、「間違っていないみたいなのに」とした方が適切であるという意見があった。また、わざわざ否定にせず「合ってるみたいなのに」と言った方が自然であるという意見もあり、許容度の低さに影響が出たと考えられる。

実際に、本来の活用である動詞型活用でも、「違う」より「間違う／間違える」という単語が優先されるために許容度が落ちた結果が以下の【調査Ⅰ】(8)である。フォローアップインタビューでは「動作を誤った」場合は「間違った／間違えた」を使用した方が自然であるとの意見があった。(8)の例文の場合、「ちがった」を用いると「自分が誤った」というニュアンスが薄らいで見えるという。

【調査Ⅰ】(8)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
(電話をかける際、最後のボタンを押し間違えて) 「あ、 <u>ちが</u> った。」	34 (68.0)	12 (24.0)	4 (8.0)

しかし、【調査Ⅰ】(1)で「間違っていない？」ということも可能であるにもかかわらず、(9)よりも許容度が高いのは、やはり「～くない？」という頻繁に使用される表現に関係があるのではないか<sup>(1)</sup>。

次に、「ちがくない」の【調査Ⅱ】の結果を挙げる。

【調査Ⅱ】(6)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
あれ？ いつもと味付け <u>ちがく</u> ない？	47 (94.0)	3 (6.0)	0 (0.0)
【調査Ⅱ】(20)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
人によって考えが <u>ちがく</u> ないと面白くないよ。	27 (54.0)	19 (38.0)	4 (8.0)

ここでも、【調査Ⅰ】と同様、疑問文(6)の方が肯定的な回答が多くなった。(20)は「違う」を「間違う」「変わる」に置き換えることはできないにもかかわらず、(6)よりも使用されていないという結果になった。以上の点から、「ちがくない」は先行研究の指

摘通り広く許容・使用され、多く疑問文で出現すると考えられる。

また、未然形「ちがければ」同様、【調査Ⅰ】よりも【調査Ⅱ】の方が肯定的な意見の割合が高くなっていた。なお、この事実は以下に見ていく活用形すべてに当てはまっている。

b. 「ちがかった」

(北本 (1995) 調査 2 における「ちがかった」許容度【○：40%、△：27%、×：33%】)

【調査Ⅰ】(3)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
昔の彼はハツラツとしていて、今の彼とは雰囲気 <u>ちが</u> かったよね？	23(46.0)	22(44.0)	5(10.0)
【調査Ⅱ】(2)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
あの人、話してみるとイメージと <u>ちが</u> かったでしょ？	27(54.0)	21(42.0)	2(4.0)

連用形「ちがかった」も否定的な意見の割合が低く、【調査Ⅰ】よりも【調査Ⅱ】で肯定的な意見の割合が高くなるという傾向は変わっていないが、フォローアップインタビューで「ちがった」は完了形、「ちがかった」は過去形である」という意見が出た。例文を示すと以下のようになる。

(23) 麻雀の牌を切った直後「あ、ちがった」[完了]

(23') 麻雀の牌を切った後、しばらく経って「あ、さっきのちがかった」[過去]

本人は、冷静にこの2つを比較すると上記のような(時制)差があるが、焦っている場面ではどちらの状況でも互いに使い得る、としていた(なお、この被験者に「ちがかった」が破格表現であるという認識はなかった)。この意見については、井上(1998)の指摘と合わせて次章で考察したい。

c. 「ちがくて」

(北本 (1995) 調査 2 における「ちがくて」許容度【○：21%、△：30%、×：49%】)

【調査Ⅰ】(4)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
(友人に遅刻を責められ) 「待って、 <u>ちが</u> くて、理由があるんだよ！」	16(32.4)	23(46.0)	11(22.0)

同じ連用形「ちがくない」「ちがかった」と比較して、×の割合が高くなっている。フォローアップインタビューでは、(4)の例文の場合「そうじゃなくて」という言い方が優先された。「ちがくて」も「そうじゃなくて」も、「遅刻を責めてきた友人の意見(この場合「正当な理由なく遅刻したと思っていること」)を否定する」という意味は同じであるが、言い回しが「そうではなくて」の方が自然であるらしい。

また、【調査Ⅰ】(4')のように「ちがくて」を本来の動詞型活用に直した場合に不自然

になるという点も、許容度に影響している可能性がある。

【調査Ⅰ】(4') 「待って、ちがって、理由があるんだよ！」

「ちがって」は通常「～と（は）違って」などの形で用いられることが多く【調査Ⅰ】(4)では「～と（は）」に当たる部分がなく、唐突に見えてしまうのではないだろうか。以下に示す【調査Ⅱ】(33)の例文は実際に「～（と）は」の部分が明示され、肯定的な意見の割合が【調査Ⅰ】(4)よりも増している。しかし、これまで見てきた通り、許容度（【調査Ⅰ】）と実際の使用（【調査Ⅱ】）とのズレによる増加も含まれているため、断言はできない。

【調査Ⅱ】(33)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
普通の鳥類とは <u>ちがくて</u> 、空を飛べない鳥もいるんだよ。	34(68.0)	13(26.0)	3(6.0)

ただし、【調査Ⅰ】(10)のように「～が違っても（ちがくても）」という「何が違うのか」を明示した形では同じ【調査Ⅰ】でも（4）よりも肯定的な意見の割合が高くなっている。

【調査Ⅰ】(10)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
君ら、クラスが <u>ちがくても</u> 仲が良いんだね。	27(46.0)	21(42.0)	6(12.0)
【調査Ⅱ】(26)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
世代が <u>ちがくても</u> 、同じ話題で盛り上がれるっていいね。	42(84.0)	8(16.0)	0(0.0)

「ちがう」という言葉の基本的な意味が「ある基準となるものと合っていない（森田(1977) p.282）」であるため、その基準を明示していない（4）の許容度が少々落ちたと考えられるだろう。しかしながら、「ちがくて」全体を見れば、他の連用形と同様、広く使用されていることが分かる。

d. 「ちがくなる」

(北本(1995) 調査2における「ちがくなる」許容度【○：34%、△：44%、×：21%】)

【調査Ⅰ】(7)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
今日のテスト範囲、予定と <u>ちがくなった</u> んだって。	15(30.0)	22(44.0)	13(26.0)

他の連用形と比較して、○の割合が少ないのは、「ちがくなった」よりも「変わった」という言い方が優先されることが原因であろう。フォローアップインタビューでも、「変わった」を使用したほうが分かりやすいという意見が出た。

また、この「ちがくなる」だけが、北本(1995) 調査2における許容度よりも否定的な割合が多くなっている。この結果は例文の文脈によるものかもしれないが、大まかに捉え

て、「ちがくなる」に関しては他の活用形と比較して普及が進んでいないようである。やはり、「変わる」という置換すべき単語があるためではないだろうか。

#### 4.2.3. 連体形「ちげー」

(北本 (1995) 調査 2 における調査結果なし)

【調査Ⅱ】(30)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
いつもと雰囲気違うなと思ってよく見たら、全然ちげー人だったよ。	22(44.0)	25(50.0)	3(6.0)

終止／連体形「ちげー」は広く認知されているため、【調査Ⅱ】のみ行った。他の活用形と比較して、△の割合が多いのは「ちげー」という言葉の粗野なイメージが関係していると考えられる（実際に「俗語」や「若者ことば」と言われることが間々ある）。被験者の半数以上が女性であることを考えると、妥当な結果と言えるのではないだろうか。

#### 4.2.4. 仮定形「ちがければ」

(北本 (1995) 調査 2 における「ちがくない」許容度【○：24%、△：24%、×：52%】)

【調査Ⅰ】(6)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
自分の名前確認して、ちがければ訂正しておいてね。	26(53.1)	15(30.6)	8(16.3)
【調査Ⅱ】(12)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
電車が一本ちがければ、彼と鉢合わせていたかもね。	31(62.0)	13(26.0)	6(12.0)

仮定形「ちがければ」も北本 (1995) の調査 2 と比較して、普及が進んでいると見てよいだろう。【調査Ⅱ】において、先行研究で触れられなかった未然形「ちがかりう」よりも×回答の割合が高くなっている（「ちがかりう」×：4.1%）が、○回答の割合から「ちがければ」の方が優勢であると言えるだろう（「ちがかりう」○：49.0%）。

#### 4.3. アンケート調査のまとめ

「変わる」「間違う」などの単語と置き換えられる場合を除いて、許容度（【調査Ⅰ】）は予想していた以上に否定的な回答の割合が低い結果となった。10問中7問で○（『違和感はなく、許容できる』）の回答が4割を超えており、破格であるという意識の薄らぎを感じる。特に、「ちがくない」という言い方に関しては、北本 (1995) の調査 2 「違わない」の許容度が相対的に低かったことや、本稿の【調査Ⅰ】で「ちがくない？」で×（『違和感があり、許容できない』）と回答した人がわずか1名（50名中）であったことを踏まえると、標準的な言葉として用いられつつあると言えるだろう。

【調査Ⅱ】の結果がいずれも【調査Ⅰ】の肯定的な回答の割合を上回っていたことから、破格表現であるという認識を使用状況が上回り、形容詞型活用の普及がさらに推し進められる状況下にあるのではないだろうか。

## 5. 「違う」の形容詞型活用の普及原因

ここまで、「違う」の形容詞活用が広く使用されるようになってきていることを確認してきた。では、なぜ本来動詞であるはずの「違う」が形容詞型の活用で用いられるようになったのだろうか。井上(1998)では、「ちがくなった」という言い方について、福島県・栃木県では若者に限らず老年層も使用し、埼玉県・東京都では若者が使用するという調査結果から、福島県あたりで数十年前に発生して、北関東を経て、東京に入ってきたと説明している。方言として使用されていた言い方であったとしても、これまで見てきたような普及状況に至ったのには何か原因があるはずである。本章では、2つの視点からその原因を考察していく。

### 5.1. 普及原因 I

#### 5.1.1. 用言の品詞分けについて

そもそも、ある用言が動詞・形容詞・形容動詞に品詞分けされる際、影響力を持つのは、その単語の形態であり、単語が持つ意味は考慮されることはない。「違う」は言い切った音がウ段であるために動詞に分類されているにすぎない。しかしながら、一般に動詞は「動作・作用など、ものごとの動的な属性を表現する品詞」であり、形容詞は「性質・状態など、ものごとの静的な属性を表現する品詞」とされる。

『日本文法大辞典』に以下のような記述がある（下線は筆者による）。

(24) 「動詞と形容詞の違いはよく問題にされるが、要するに事物の属性を運動・生成・変化するものとしてとらえたのが動詞であり、事物の属性を静止・固定・無変化なものとしてとらえたのが形容詞であるといつてよい。」（『日本文法大辞典』pp.198-199）

(25) 「対立概念を表わす語の一方が動詞、他方が形容詞に属するというような事例が引かれるが、一般論に多少の例外がつきまとうのは常のことであるから、そのことのみで右のような一般的傾向の存在自体を否定するには及ばない」

（『日本文法大辞典』p.199）

つまり、動詞と形容詞の意味には一般的な傾向があるが、品詞分けは単語の形態によって行われるため、時に単語が持つ意味と品詞との間に乖離が生じることがあるということになる。

#### 5.1.2. 動詞「違う」の意味（森田（1977））

では、動詞「違う」が持つ意味とは何か。森田（1977）を以下にまとめる。

森田（1977）は「違う」の基本的な意味は「ある基準となるものと合っていない」であり、その基準を何に置くかによって「違う」の内容が分かれてくるとしている。



①「AトBハ違う／AトBトハ…が違う」

A・Bを同列に扱って両者がある面において比較し、相互に差があり一致しないと判断する。「同じだ／等しい（“その面に限っていえば一致する状態にある”意）」と対義関係になる。

②「AハBト違う」

Bを基準にすえてAを眺め、差があると判断する。「同じだ／等しい（“等値等価”の意）」と対義関係になる。

③「Aガ違う」

特に基準とするBを他者に求めない。Aの規定の事実、Aが本来あるべき状態が基準であって、それと現実のAにずれが生じているため、不都合と判断する意識。「正しい」と対義関係になる。

森田は「違う」が形容詞と対義関係となることに関して、「形容詞と対応するのは、それだけ状態性の強い動詞というわけで、動作性は「間違える」「誤る」などによって肩代りわりされる（pp.283-284）（下線は筆者による）」と述べ、(26) (27) の例文を挙げている。

- (26) 「答えが正しい⇔答えが違う／間違っている」 (森田 (1977) p.284)  
 (27) 「答えが合っている⇔答えが間違っている／誤っている」 (森田 (1977) p.284)

森田 (1977) が指摘するように、「違う」が表わす動的な属性に関して「間違える／間違える」「変わる」といった別の動詞が使用される傾向があることは、北本 (1995) 調査2や本稿のアンケート調査からも分かっている。

### 5.1.3. 「違う」の意味と形態の乖離

以上の点から、「違う」の形容詞型活用は、「違う」が持つ意味（静的（形容詞的）な状態性）と形態（動詞）のギャップを埋めるために生じたものであると考えられる。そして、「違う」が持つ動的な意味は、より動作性の強く表れる動詞で表現するという流れになっているようである。

### 5.2. 普及原因II

なお、普及原因Iについては北本 (1995) でも同様の見解がなされている。本稿では、井上 (1998) が触れていた動詞型活用「ちがった」と形容詞型活用「ちがかった」の意味の違いについても触れておきたい。

井上 (1998) は「ちがった」が“変化の瞬間”を、「ちがかった」が“過去の継続状態”を簡潔に表すという指摘していた (2.2 参照)。

- (8) 化学実験中、試験液をたらしながら、今か今かと色の変わる瞬間を待っている時に  
「あっ、違った」 (井上 (1998) p.67)
- (9) ?? 「昔はバレーボールのルールは違った」
- (9') 「昔はバレーボールのルールは違っていた」
- (9'') 「昔はバレーボールのルールは違かった」 (井上 (1998) p.67)

本稿のアンケート調査、フォローアップインタビューで「ちがった」は“完了形”、「ちがかった」は“過去形”とする意見があったことは前述の通りである (4.2.2.参照)。

- (23) 麻雀の牌を切った直後「あ、ちがった」[完了]
- (23') 麻雀の牌を切った後、しばらく経って「あ、さっきのちがかった」[過去]

### 5.2.1. 完了形「ちがった」

まず、井上 (1998) (8) と、フォローアップインタビューで出た例 (23) の「ちがった」の語彙的な意味について、森田 (1977) の分類 (5.1.2.参照) に当てはめる。

(8) は、「元の色」を基準にすえて、それとは異なる「別の色」に変化したことについて述べているので、森田 (1977) ② [AハBト違う] に分類することができる。それに対して (23) は、「切った牌」が本来あるべき (正しい) 状態ではないことについて述べているので、③ [Aガ違う] に分類される。

次に、両者の時制的な意味について考えていく。

(8) は、今か今かと待ち続け、「元の色 (基準)」から「別の色 (基準と異なる状態)」への変化が起きた瞬間を「ちがった」で述べている。いわば、変化の終了 (変化の成立) を捉える、“終了限界達成性”を表している。この「ちがった」が表す意味を“基準と異なる状態の達成”とする (なお、この用法に関しては、「違う」よりも変化そのものを表せる「変わる」の方が適当であると考えられる)。(23) は、「誤った牌を切ってしまった (誤った状態)」が起きた瞬間を「ちがった」で述べ、動作の成立を捉える“開始限界達成性”を表している。この「ちがった」が表す意味を“誤った状態の発生”とする。

この2つの「ちがった」は、語彙的な意味に違いはあるが、共に“限界達成性”を表すという点で、時制的な意味は大まかに同じであると捉えることができる。本稿ではこれら「ちがった」が表す2つの時制“発生”と“達成”を広く“完了”時制と呼ぶこととする。

### 5.2.2. 過去形「ちがかった」

井上 (1998) が (9'') のように「ちがう」にカタを付けて表現すると「過去の継続的状态をもっと簡潔に表わせる」とする意見と、フォローアップインタビューで出た (23') の「ちがかった=過去形である」とする意見は意味合いが異なる。「ちがかった」は本稿

のアンケート調査で普及が認められていたが、以下の【調査Ⅰ】(3)と【調査Ⅱ】(2)の例文も含めて「ちがかった」の意味について考察していく。

【調査Ⅰ】(3)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
昔の彼はハツラツとしていて、今の彼とは雰囲気 <u>ちがかった</u> よね？	23(46.0)	22(44.0)	5(10.0)
【調査Ⅱ】(2)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
あの人、話してみるとイメージと <u>ちがかった</u> でしょ？	27(54.0)	21(42.0)	2(4.0)

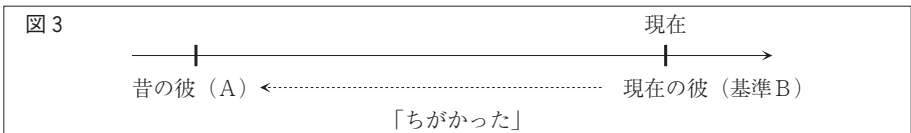
まず、「ちがった」と同様に、例文をそれぞれの「ちがかった」の語彙の意味を森田(1977)の分類(5.1.2.参照)に当てはめていく。

井上(1998)(9'')は「現在のバレーボールのルール」を基準にすえて「昔のバレーボールのルール」を眺め、差があると判断しているので、森田(1977)の②[AハBト違う]に分類できる。また同様に、【調査Ⅰ】(3)は「現在の彼」を基準にすえて「昔の彼」を眺め差があると判断し、【調査Ⅱ】(2)は「以前あの人のイメージ」を基準に「話してみてもあの人のイメージ」と差があったと判断しているのので、②に分類できる。(23')だけは、「過去に切った牌」が本来あるべき(正しい)状態ではなかったことを述べているので、森田(1977)の③[Aガ違う]に分類できる。

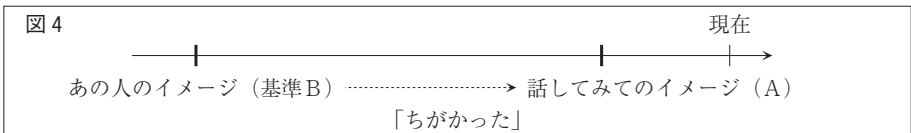
端的には、(9'')・【調査Ⅰ】(3)・【調査Ⅱ】(2)は「Aの基準Bとの異なり」を、(23')は「Aの誤り」を意味していると言ってよいだろう。

次に、それぞれの時制的な意味について図で考えていく。

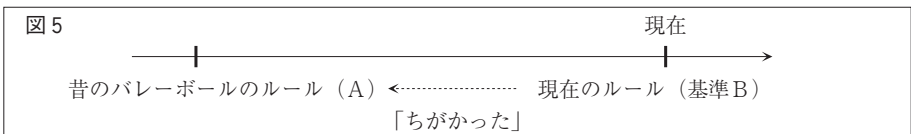
【調査Ⅰ】(3)は「現在の彼」と「昔の彼」を比較している(図3)。



【調査Ⅱ】(2)は、「(創造していた)あの人のイメージ」と「(話してみても)実際のあの人のイメージ」を比較している(図4)。



なお、井上(1998)(9'')の例も【調査Ⅰ】(3)と同様の図で表すことができる(図5)。



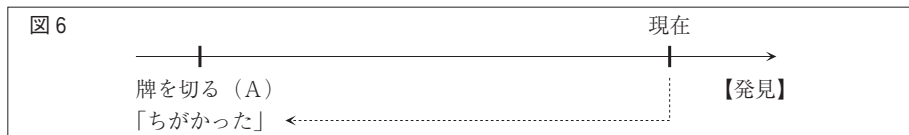
井上 (1998) はこの「ちがかった」を“過去の継続状態”を示すとしていたが、「現在の状態」と「過去 (ある時点) の状態」を比較しているだけと考えることもできる。また、【調査Ⅱ】(2) ように、基準となる時制は現在に限られない。本稿ではこの「ちがかった」が表す意味を“過去におけるAと基準Bとの相違”に訂正したい。

なお、井上 (1998) は、(9) の例文について、テイタを付けて“過去の継続的状态”を示すのが適当だとしていた。しかし、本稿の【調査Ⅰ】(5) では以下のような結果が出ており、(9) における「ちがった」の使用には問題がない。この「ちがった」は“過去におけるAと基準Bとの相違”を表す「ちがかった」と同様に解釈できる (図5を適用)。

【調査Ⅰ】(5)	○：人(%)	△：人(%)	×：人(%)
昔はバレーボールのルールは今とはちがったらしいよ。	48 (96.0)	2 (4.0)	0 (0.0)

なお、このように「ちがった」が“完了”ではなく“過去”を表すためには、「昔は」などの過去時制を表す単語と共起することが条件として挙げられる。

次に、フォローアップインタビューで出された (23') の「ちがかった」は次のように表すことができる (図6)。



(23') の場合、「牌を切った時点 (過去)」を「現在」から振り返り、誤りを発見している。そこで、この「ちがかった」の表す意味を“過去のAの誤りの発見”とする。なお、この場合も、過去時制との共起を条件として「ちがった」で表現することができる。

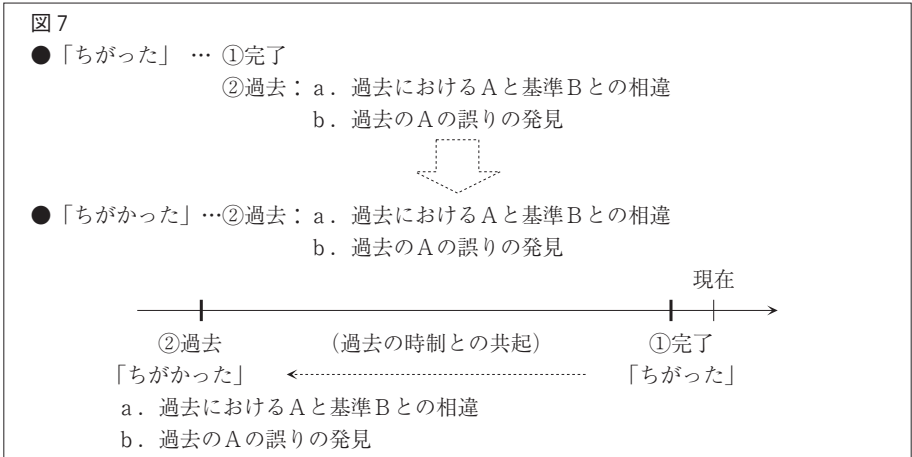
(28) 「あ、さっきの一手はちがったなあ」 (作例)

以上の点から、【調査Ⅰ】(3)・【調査Ⅱ】(2)・井上 (1998) (9') の「ちがかった」とフォローアップインタビューで出た (23') の「ちがかった」は語彙的な意味に違いはあるものの、時間的な意味は“過去”で共通していることが分かった。また、本来の動詞型活用形「ちがった」も“完了”時制以外に、「ちがかった」同様の“過去”時制を表すことを確認した。

### 5.2.3. 「ちがった」と「ちがかった」の役割分担

「ちがった」と「ちがかった」の意味をまとめると次のようになる (図7)。

図7から分かる通り、「ちがった」が担っている2つの役割のうち1つを「ちがかった」で表せることが分かった。現段階で「ちがった」の過去時制が失われているわけではない



が、役割を分担することができるという意味で、形容詞型活用「ちがかった」の存在には意義があると言える。このことが、形容詞型活用「ちがかった」が広く普及した原因の一つではないかと考えられる。なお、「ちがかった」が完了形を表せないのは、そもそも形容詞の活用完了形がないためであろう。

おわりに

本稿では、動詞「違う」が「ちがくない」「ちがかった」などの形で広く用いられ、形容詞型の活用体系を揃えつつあることと、その原因が「違う」が持つ意味（静的（形容詞的）な状態性）と形態（動詞）の乖離にあることを確認した。また、動詞型活用「ちがった」と、形容詞型活用「ちがかった」が役割の分担をしつつある可能性についても触れた。

先行研究から10年の時を経て、「違う」の形容詞型活用は着実に普及してきているようであるが、「違う」の動的な意味は「間違う／間違える」「変わる」など他の動詞に、静的な意味は形容詞型活用に分担されつつある中で、本来の動詞型活用がその勢力を縮小しつつあるかどうかまでは確認できなかった。しかし、形容詞型活用が漫画の中で使用されていたり、(17) (18) (20) のような Web 用例（3. 参照）では敬体の文章でも使用されていたり、最近では携帯電話の変換機能で「ちがくて」を「違くて」に変換可能であるもの<sup>(2)</sup>もあったりと、破格表現であるという意識が薄らぐような状況にある。「違う」の活用形が今後、形容詞型に一本化されていくかどうかについても注目していきたい。

【注】

(1) 「ちがくない？」が広く使用されるのには対偶的な要因も考えられる。「間違う」という語は動作性が強く、相手の行為そのものを否定する意味合いがあるため、待遇的にマイナスの表現になり得る。その一方「違う」を用いるとあくまで「その状態が正し

くない」ということを述べるに留まるため、婉曲的な表現として好まれているのでないかと考えられる（「違う」が表す状態性については5.1.2.参照）。

- (2) 筆者の所有する携帯電話（NEC製）は、「違う」の形容詞型活用のうち、「違くて」のみ変換が可能。Web上でも、同様の報告が1件見つかった。

#### 【参考文献】

- 井上史雄（1985）『新しい日本語—《新方言》の分布と変化』（明治書院）  
———（1998）『日本語ウォッチング』（岩波新書）  
北本洋子（1995）「日本語動詞「違う」の形容詞型活用の実態」『横浜女子短期大学研究紀要』第10号（横浜女子短期大学）  
工藤真由美（1995）『日本語研究業書 [第2期第7巻] アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間表現—』（ひつじ書房）  
森田良行（1977）『基礎日本語—意味と使い方』（角川書店）  
山口佳也（1971）「形容詞」松村明編『日本文法大辞典』pp.198-201（明治書院）

#### 【用例出典】

- 大場つぐみ・小畑健（2009）『バクマン。』3巻（集英社）  
———（2009）『バクマン。』4巻（集英社）  
———（2010）『バクマン。』6巻（集英社）  
桜井和寿（1997）『Everything (It's you)』（TOY S FACTORY）  
篠原健太（2008）『SKET DANCE』2巻（集英社）  
吉住 渉（1998）『ミントな僕ら』1巻（集英社）

（いしい・ゆきこ 千葉大学文学部日本文化学科2011年卒業）